

解放前夜に於ける中國農村の生活

——毛沢東の農村実態調査を例として——

町 田 是 正

目 次

- 一、はしがき
- 二、土地所有形態と農村階級
- 三、『中国に於ける真の論点は民衆の飢餓である』
- 四、むすび

一、はしがき

明史欧陽鐸の『郡多士大夫。其士大夫又多田産。民有産者無幾耳』とは、一般農民の土地所有の極めて少なかつたことを述べたものであり、正統十四年五月癸卯の福建省陽鼎の耆民、林恵の言の『縁郷民多耕市民田土。收成還租之余、僅足食用』（註1）とは、農民の多くが都市に住む地主の佃戸となつて乏しい生活を送つていたことを述べたものである。康熙安溪県卷四貢俗には『民間有田。悉入於郡大家之手。戴粟入郡。而民間米粟。以此不充佃種之家』（註2）とあつて、都市の富豪によつて土地が買占められ收穫の多くは彼等の手中に歸して、實際の耕作者たる佃戸はその搾取に甘じなければならなかつたことを明にしている。（史学雑誌六三ノ七）

斯る農村の土地所有形態の懸隔は、所謂近代に至るも存續し一層の拍車をかけられた場合も見られる。(註3) 加へて阿片戦争により中国が半植民地国の分界線を劃されて以来、帝國主義とそれに直結して商業的營利をむさぼる買辦資本 *Maier-Pan* が極めて露骨に農村社会に侵出し、農民は内には非生産的遊閑階級である半封建的地主階級の過重なる搾取と、外には帝國主義の不可避的な洗礼を受けて民族の自主権を喪失し、そこに半封建制の内在的矛盾の対立の爆發としての農村革命と、戦後ナショナリズムの再評価とあいまつて、農民と帝國主義の矛盾の問題がクローズ・アップされたのも慥かに理由があるのである。(註4)

このことから、中国農村の分析により変化しゆく内的組織が把握されれば、中国社会構造の特性も明にされるであろうし、既に中国農村の実態調査による農村社会構造の究明は、アジア研究者すべての願望であつた、(註5) 毛沢東 *Mao Tse-tung* が『要了解情況、唯一的方法是社会作調査、調査社会各階級的生動情況』(選集三ノ八一〇)と言うのも、その調査方法研究的概念を意味したものである。他方日本側学者にとつても中国社会の特殊な半封建制(帝國主義が旧中国社会を破壊することにより、近代化の趨勢にありながらそのテムポは遅く封建制は強く残存し、農業に於ける地代の高率と買辦資本即高利貸資本の搾取が中国经济生活で優位を占む)の發展と解体とを實態に即し究明することはその最たる願ひであつた。岡松參太郎博士らの『臨時台灣旧慣調査会調査報告書』(才一回明治三六年。第二回三九年)。同旧慣調査会の織田萬博士らの『清国行政法』(汎論明治三八年。各論四三年)。滿鉄の天海謙三郎氏らの『滿鉄旧慣調査報告』(大正三・四年)等は単に台灣・滿洲のみでなく、広く旧中国の土地制度。行政法に関する旧慣調査として學術的意義は高く評価されてよいと思う。

併し実態調査の目的は社会關係の構成形態を究明するをもつて満足することなく、實質的組織と動的機構の規範を

客観的条件の下に捉へることこそ最善の方法でなければならない。(旧中国の政治力の社会的滲透力の低い国家に於ては、社会的実行性の検討は慎重を要する)この調査目的に沿つて旧慣調査事業を吸収し批判しつゝ、純正な学術的意図をもつて中国農村社会の慣行究明にのり出したのが、一九三九年の末弘厳太郎博士の指導下に行はれた『華北農村慣行調査事業』であり、今日から見れば時恰も中国農村解放前夜に当り、中国最近の歴史的、社会的機構も知り得て中国研究者のみならず、法学・社会学・経済学・歴史学・民俗学の研究者にも貴重な資料を提供している。(註6)

さりながら当時の日華両国の国際的緊張は、これら調査当事者の外部者としての立場が、毛沢東の調査に見られる直接農民運動に参加している農民に接することの不可能であつた事態と事由に於て、従来の調査内容にこの意味に於ける積極面を欠くマイナスを認めざるを得ない。そこで学問的角度から出来得る限り接近するために、毛沢東の実態調査報告を併せ参照し、その資料を如何に使いこなすかによつて中国農村社会の姿も明にされることを提言し、解放前夜の農村の内的構造を農村支配階級と被支配階級の土地所有形態と佃農形態(牛の如く文盲。豚の如く汚く労働)の下にある農民生活の状況を半封建的搾取關係に力点を置き明にしてみよう。

註

(1) 策枢の通貨の條・史学雜誌六三ノ七『明代福建の農家経済』参照

(2) 上掲書。二頁参照

(3) 一七二一年以来一人当り平均土地所有量の変化は、一七二一年に九〇畝。一七七二年に二六畝。一八一二年は二一畝。一八八〇年は一〇畝。一九一四年に五畝となつて、一九一四年代最も加速度的テムポで進行している。馬場明男『支那政治経済年表』参照。

(4) 毛沢東は『帝國主義の侵略は、国内階級關係の変化をひきおこし、全民族を連合し（中略）民主的統一戦線が建立され（中略）中国において民族的、民主的統一戦線を建立することが急需となつた。』（国共両党合作成立後の切迫した任務）邦訳選集三卷九五頁と主張したが、半植民地中国が帝國主義に対する民族民主統一戦線によつて獨立を闘つたことは世界史の一大転換である。―思想一九四九・二の「民族問題の理論的基礎」平野義太郎は解説的である。―

(5) 欧米及び中国側学者による中国社会を典型とするアジア農村社会の研究は一九二〇年以來著しい。その文献解題と目録に就ては一橋大学新聞部編『経済学研究の栞』の『中国近代経済史』の項。東洋経済新報社刊『体系経済学辞典』の参考文献の項。中国農村慣行調査 Rural custom and practices of China の第一巻解題等を参照されたい。若し著しきもの F・C を上げれば、アーサー・スミッ『Village Life in China 1899』、バシク『Chinese farm economy 1930, Land utilization in China 1930』、ハイット・フォゲル『Wirtschaft und Gesellschaft Chinas』、ローネ『Agriculture and industry in China, Land and labour in China 1932』、ヒンダースノー『Red star over China 1937』。費孝通『中国の農民生活』。李立三『中国に於ける最近の農民運動と農民問題』等。

(6) 華北農村慣行調査計画は一九三九年十月東亜研究所第六調査委員会内の學術部委員会（委員長山田三良博士）の華中商事慣行調査計画と平行して立てられ、殊に末弘嚴太郎博士指導下に平野義太郎、福島正夫、仁井田陞、徳田良治の諸氏が委員となり津田左右吉、加藤繁、和田清、狩野直喜、織田萬、各博士の意見を徴し、『中国の民衆が如何なる慣行の下に社会生活を営んでいるか。換言すれば中国社会に行われている慣行を明にすることによつてその社会の特質を生けるがまゝに書き出すこと』（末弘博士調査目的論文抜粋）を目的として土地制度、地主、小作、水利、家族制度、婚姻、離婚、夫権、家産均分、土地売買、公租公課、金融、取引、等々の生活規範を法社会学的方法により精細に記録した資料である。

二、土地所有形態と農村階級

旧中国社会の生産關係を變革し生産力を推し進めてきた幾多の農民暴動（戦争）は、封建的生產關係の下に従属（隷屬）せしめられた農民が、權利の均等を求めて絶対（官僚）專制的勢力（支配）に対するレジスタンスであつた。（註1）毛沢東が『湖南農民運動考察報告』の中で『農民的主要攻撃目標は土豪劣紳。不法地主・旁及各種宗法的思想和制度・城裏的貧官汚吏・郷村的惡劣習慣』（註2）と述べているのは、抗日戦争前夜に於ける『土地革命的時期』（註3）の農民蜂起の攻撃目標を支配階級と農民の間の矛盾を必然的産物として表言したものである。

而して半封建的土地所有形態の究明も毛沢東に随へば、『用馬克思主義基本觀點、即階級分析的方法』（註4）と、マルキシズムの運用分析をもつてしている。（彼に依ればマルクス・レーニン主義の社会階級分析運用は革命に於ける重要事であり、農村階級要素の區別は土地革命闘争の基準である。）その階級的立場・大衆的立場・大衆的見地に立つて、地主・富農・中農・貧農・雇農のグループに分類し、殊に貧農階級にピントと合せてその相対比重を示す土地所有形態から明にしようと思うが、その前に毛沢東の報告と併せ参照の便と、その信頼度を高めるために従來の報告（研究）を二・三とり上げて見よう。

林惠海教授が江蘇省吳興木瀆區楓橋鎮（蘇湖郊外）の第十一保、才十二保（旧称孫家郷）の農家一五四戸を対象とした農家聚落態調査によれば次の如くである。

| 項目 | 階級 | 地 主 | | 富 農 | | 專 兼 農 別 戸 数 | 戸 数 | 戸 数 百 分 比 | 耕 作 畝 数 | 畝 数 百 分 比 | 一 戸 平 均 耕 作 畝 数 |
|----|----|-----|-----|-----|----|-------------|-----|-----------|---------|-----------|-----------------|
| | | 自作 | 自小作 | 自小作 | 小作 | | | | | | |
| | | 二 | 八 | 一 | 八 | 一 | 九 | 二 | 一、三〇 | 三〇、五〇 | 一、九六 |
| | | | | | | 兼農A 兼農B | | 五、八四 | 二八〇、六五 | 一八、〇三 | 一五、二五 |
| | | | | | | | | | | | 三一、一八 |

| 中農 | 貧農 | 雇農 | 合計 |
|--------|--------|-------|---------|
| 一 | 五 | 一 | 九 |
| 一九 | 一一 | 二 | 四〇 |
| 二九 | 六九 | 六 | 一〇五 |
| 四二 | 四〇 | | 九一 |
| 七 | 三三 | | 四一 |
| | 一二 | 九 | 二二 |
| 四九 | 八五 | 九 | 一一五 |
| 三一、八二 | 五五、二〇 | 五、八四 | 一〇〇 |
| 七七六、三九 | 四四七、八五 | 二〇、九〇 | 一五五六、二九 |
| 四九、八九 | 二八、七八 | 一、三四 | 一〇〇 |
| 一五、八四 | 五、二七 | 二、三二 | 一〇、一一 |

林惠海『中支江南社会制度研究上卷』六六頁參照 赤坂国会図書館中国資料部

本調査地に於て最も富裕な二戸の地主階級は、夫々二・二畝。三・一畝を租出して前者は五・〇畝、後者は二五・五畝を耕作し平均一五・二畝を播耕する自耕農でもある。（同書六六）次の富農は九戸で全体の五・八％に当り平均三一・二八畝を耕作している。次に中農は四九戸で全体の三一・八％に当り一五・八四畝を平均耕作し、自作以上が二〇戸、小作二九戸で専業が多く、兼業は七戸にすぎず生活力の余裕を示している。貧農は全体の五五・二％に当り平均耕畝五・二七畝である。自小作以上一六戸で大部分の六九戸は小作農で専業四〇戸、兼業四五戸で半数以上は農業以外の業務に従事して若干の収入を得るとしても、尙且生活の貧窮を脱し得ない階級である。次の雇農は極貧農家に属し全体の五・八％に当り、自小作三戸。小作六戸であるが、何分にも平均二・三畝の耕畝数では独立専農は不可能であつて、常に短工として他農家に傭われて経済的生活の非常な困苦の中に生命を支えている階級である。（社会階級と経済生活の分析は毛沢東の『中国社会各階級的分析』にくわしい。）

次に華南広東省に於ける一九三三年の評価を見れば次の如くである。

米穀の産地として知られる広東 Kwang-tung 全省の土地配分は極めて偏在である。貧農は戸数に於て七四％を占

| 階級項目 | 農家数 | 農家数百分比 | 所有耕地面積 | 耕地面積百分比 | 一戸平均耕地面積 |
|------|----------|--------|------------|---------|----------|
| 地主 | 一一〇、〇〇〇 | 二% | 二二、三六〇、〇〇〇 | 五二% | 二〇三、三 |
| 富農 | 二二〇、〇〇〇 | 四 | 五、四六〇、〇〇〇 | 一三 | 二四、八 |
| 中農 | 一〇九〇、〇〇〇 | 二〇 | 六、五五〇、〇〇〇 | 一五 | 六、〇 |
| 貧農雇農 | 四四〇〇、〇〇〇 | 七四 | 八、〇八〇、〇〇〇 | 一九 | 二、〇 |
| 合計 | 五八二〇、〇〇〇 | 一〇〇 | 四二、四五〇、〇〇〇 | 九九 | 七、八 |

現在支那土地問題一一頁 同、中国資料部

とボス）の如何に多いかを示すのである。斯る土地配分の偏在の矛盾は、江南・華南という經濟的地域的の條件による外国資本主義の中国進出と買辦資本（帝國主義が中国で活動する為の中介役を占め、広くは直接、間接に帝國主義に奉仕し利益を得る資本家や商人）の土豪劣紳との利害的連繫による農村侵出を併せ考究すべきである。が、ともかく貧農階級の耕地所有面積の劣悪條件は佃農形態への転化を不可避的ならしめ、江南地域に小作紐帶形態の比重が大きく一面を知ることが出来るのである。（註5）

次に土地革命の過程の中で、農民運動と共にあつた毛沢東の調査報告の一つである『興国県の調査』（一九三一年）を取り上げて、江西省興国県才十区永豊区の土地關係を示せば左の如くである。

【永豊区 Yung-feng yü の地主は一%の人口で五一%の土地を、富農は五%の人口で三〇%の土地を所有し、合計公堂の土地を含めて全体の八〇%以上の土地を管理所有する特権階級を構成している。そこでその対局にある貧農の全

めるが耕作地は僅かに全体の一九%にしか相当せず、その対局にある地主は五二%の耕地を僅か二%によつて占有し一戸平均二〇〇畝以上の耕地数の独占的形態は、同地域に土豪劣紳と言われる半封建的特権支配階級（村落の大地主

| 階級 | 項目 | 土地配分比 | 人口構成比 | 備考 |
|-----------|----|-------|-------|---|
| 地主(公堂を含む) | 農 | 五一% | 一% | 公堂は共同祭祀。共同財産管理の建物で、それに附属する農地一〇%を地主が所有している。 |
| 富農 | 農 | 三〇 | 五 | 人口構成比はこの他に農業労働者一%。手工業者七%小商人三%。遊民二%が永豊区には住む。 |
| 中農 | 農 | 一五 | 二〇 | |
| 貧農 | 農 | 五 | 六〇 | |

必沢東選集一卷二四〇頁邦訳参照

化と改善。生産財と生活資料の給与。政治意識の高揚) 政策が強力に打出され、それに伴う民主的階級(プロレタリアート。民族ブル。小商人)の自覚と蜂起によらざるかぎり解放への道は開かれないのである。

参考。馬場明男氏『支那政治経済年表』の一九三〇年河北省中部保定県 Booring の調査統計によれば、三・七%の地主は一三・四%の土地を、八・〇%の富農は二七・九%の耕地を占有し、六五・一%の貧農は二五・九%の耕地をもち一戸平均六・六畝の耕作面積で、地主は五八・五畝を、富農は五六・三畝を示している。

次に華北省順義県 Shun-i hsien の土地關係を『中国農村慣行調査』資料によつて見よう。(同報告は順義県沙井村の戸別調査集計—昭和十七年—から作成された土地關係である)

順義県沙井村の農村動態は、人口約四百、戸数約七〇戸の華北村落の一般的規模に準じた華北平原の一部を占める平凡な村である。その土地關係も既に各地域に見た如く農民の零細化はまぬがれていない。所有地配分表に明な如く

耕地五%の配分では、明に支配階級の土地を平均分配しないかぎり(『耕者有其田』的号) 同区の土地關係の矛盾は解明されない。又中農も人口二〇%に対し一五%の土地所有で明に平均分配を望んでいる。それにしても一般農民の土地問題は生活資料の問題であり、その経済的窮迫と破綻は、生活の合理化(生活の組織

| 所有地の配分 | | | | |
|--------|----|----|------|----|
| 畝数 | 戸数 | % | 畝数合計 | % |
| 0 | 15 | 21 | 0 | 0 |
| 1—5 | 18 | 26 | 59 | 6 |
| 6—10 | 9 | 13 | 75 | 8 |
| 11—15 | 3 | 4 | 37 | 4 |
| 16—20 | 10 | 14 | 171 | 18 |
| 21—25 | 5 | 7 | 120 | 12 |
| 26—30 | 1 | 1 | 30 | 3 |
| 31—40 | 4 | 6 | 141 | 15 |
| 41—50 | 3 | 4 | 137 | 14 |
| 51—80 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 81—100 | 1 | 1 | 83 | 9 |
| 100以上 | 1 | 1 | 110 | 10 |
| 計 | 70 | 98 | 963 | 99 |

| 耕作地の配分 | | | | |
|----------------|----|----|--------|-----|
| " 数 | 戸数 | % | 畝数合計 | % |
| 0 | 7 | 10 | 0 | 0 |
| 1—5 | 15 | 21 | 58.5 | 5 |
| 6—10 | 14 | 20 | 105.1 | 9 |
| 11—15 | 5 | 6 | 64 | 5 |
| 16—20 | 9 | 13 | 164 | 14 |
| 21—25 | 5 | 7 | 121 | 11 |
| 26—30 | 5 | 7 | 140.5 | 12 |
| 31—40 | 4 | 5 | 140 | 12 |
| 41—50 | 2 | 3 | 87.1 | 7 |
| 51—80 | 3 | 4 | 188.4 | 16 |
| 81—100 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 100以上 | 1 | 1 | 110 | 9 |
| 計 | 70 | 97 | 1178.6 | 100 |
| 備考1畝は日本の6畝に当る。 | | | | |

土地総計は約十頃（一頃は百畝）で、一戸当り平均一四畝弱で一人当り約二・五畝である。過不足なく普通の生活を維持するには一人平均約五畝を必要とするが、その半分の土地では全体的缺乏と零細は必然的な傾向であろう。而も半封建的搾取關係によつて一般耕作農民は酷貧情態におかれ、土地皆無者及一〇畝以下の極零細貧農階級は四〇戸で全体の六〇％を占め、それに対し三〇畝以上の生活余裕者は僅か九戸をもつて全農村の三八％に当る四七一畝を占有している。この土地形態は耕作地の配分にも同様に見られる。即ち三〇畝以上の農村支配階級は全耕地の五四％の五二五畝を占有し、三〇畝以下の中農。貧農階級は六五三畝の全体の五六％を、全農家数の八四％の戸数によつて耕作しておりその所有形態の矛盾は著しいのである。

既に分析を試みた如く華北・華中・華南と各地域の土地配分の階級別による偏在は（広大な国土に於て各地の條件と

封建的相違もあるが、革命前夜の中国農村人口の一〇％以下が地主富農で全農村の七〇～八〇％の土地を占有し、対局の六〇～八〇％の貧農・雇農は二〇～三〇％の土地を占有するにすぎない。農民生活に大きな懸隔を生じ、そこに半封建的土地搾取関係に於ける社会的生産過程で、その役割と地位の差異による内在的機能に基く集団としての階級的差別を生む原因たることは既に知る所である。即ち大土地所有者は充分な農具と役畜・資金をもつて家族労働の他に長工。短工の傭労働によつて経営する富農的経営者である。（註6）この対局にあるものは、生産手段も生産必需的資金もなく、他に傭労働者・出稼・小商人となつて辛うじて生計を立てる所の貧農階級である。（註7）（華北・華中・華南にわたり農民の階級分化は上、下の兩極に向つている。）そしてこの中間に、自己の所有地を自家勞力で耕作し傭労働はせず稀に傭労働者となる所の中農層がいる（註8）このように半封建的農村社会機構の根本矛盾が、日常生活の能力（経済的自立の意味に於ける）の差別が階級關係を生み出したのであると言ひ得るであらう。（階級の定義に就ては社会科学講座の『社会構成の原理』篇弘文堂版を参照されたい）尙本項で附言したいことは、華北農村に見られる如く土地所有の大小が社会的地位を決する所の実力主義が支配的であつてそこに身分的優位や身分的隷属の成立を阻んでいることである。（註9）これは日本の旧農村（或は第一次・才二次農地改革後も残る地主制）に於ける伝統的封建遺制としての、隷属關係とは対蹠的であることにも注意の眼を向けられる問題が残されている。

註

（1）封建社会の主要な矛盾は農民階級と地主階級の矛盾である。地主階級の農民に対する残酷な経済的搾取と政治的圧迫によつて農民は幾度となく蜂起を行い、中国の歴史を推し進めてきた真の原動力として農民暴動と農民戦争がある。秦朝の陳勝・吳広・項羽・劉邦。漢朝の新市・平林・赤眉・黃巾・銅馬。隋朝の李密・竇建德。唐朝の黃巢。宋朝の方臘。元朝の朱元璋。

明朝の李自成。清朝の太平天国と数百年を下らない。農民の反抗運動は当時の専制支配に打撃を与え多少とも社会の生産關係を変化させ、多少とも社会の生産力を推し進めた。毛沢東『中国革命和中国共産党』参照。

(2) 毛沢東『湖南農民運動考察報告』の一項『打倒土豪劣紳・一切權力歸農會』参照。尙これは人民出版社・新華書店発行。一九五一年十月北京第一版を国会図書館中国資料部の好意による。

(3) 『土地革命的時期』とは中国革命史の一段階で、第二次国内革命戦争の時期に当り、一九二七年の国共分裂から一九三七年七月の抗日戦争前夜までを指し、ソヴェト時代とも呼ばれて中国共産黨に革命的根拠地をもたらした時代である。毛沢東『論新民主主義』。『中国革命和中国共産党』。胡華民『中国新民主主義革命史参考資料』参照。

(4) 毛沢東選集三卷『農村調査的序言和跋』八一〇頁・一九四一年三月を参照。

(5) 中国に於ける小作地の割合は土地委員會及びバックによれば、夫々三〇・七%と二八・四%である。又広東省は七六%と五九%を示し華南水田地域にいに。例えば江南常熟縣の一村で七三・三%、松江県の一村で八七・三%を示す。(満鉄調査部江蘇常熟縣・松江県・農村実態調査報告、昭和十五年)又マロン及びテイラーの江陰・吳江の調査でも六九・九%と七六・二%を示している。(B.C.Malon, T.B.Taylor, The Study of Chinese Rural Economy 1924)

(6) 富農経営とその階級の特徴に就て、毛沢東は『怎樣分析農村階級』の中で『富農一般都佔有比較優裕の生産工具和活動資本・自己参加勞働・但經常地位依靠剝削爲其生活・來源的一部分或大部』と、或は『中国社会各階級的情況是怎样的呢?』の中で『這些階級代表中国最落后的和最反動的生產關係、阻礙中国生產力的發展』と述べている。

(7) 毛沢東は『怎樣分析農村階級』の中で『貧農有些佔有一部分土地和不完整的工具、有些全無土地、只有一些不完整的工具。一般都須租入土地來耕受入地租、債利和小部分雇傭勞働的剝削』と述べている。

(8) 上掲書一二五頁に随へば『中農許多都全有土地・有些中農只佔有一部分土地・別租入一部分土地・有些中農並無土地・全部土地

都是租入的・中農自己都相當的工具・中農的生活來源全靠自己勞働・或主要靠自己勞働』とある。

(9) 川野教授の『小作關係より見たる北支農村の特質』には『農村での生産性の低さからして佃戸の經營條件が劣悪であるに相違なく、従つて生産手段の貸与を中心とする一種の主従關係・恩情關係を地主佃戸間に予想することはむしろ自然であるに拘らず、かゝる關係は缺如している。そこでは地主佃戸關係は經濟的及び社会的に極めて自由であり、佃戸の地位の無制約性は著しい』と華北農村慣行調査報告の結果を示されておる。文献には、磯田進氏『北支に於ける小作の法律關係』。仁井田教授『中国法制史』。中国農村慣行調査一卷・二巻『中国農村の家庭』等々あり

三、「中國に於ける眞の論點は民衆の飢餓である。」

この言葉は、中国の人類學者費孝通博士が、その著『中国の農民生活』の中で、半封建的土地所有形態の矛盾に伴ない。地主の苛斂誅求の重い負担に因り当然起るべき結果として、農民の經濟的貧窮化の情態を簡潔に要約したものである。(Fei Hsiao - tung. Peasant Life in China. London 1938. P.282)

そこで半封建的土地所有制度に於ける支配階級の、就中その誅求が如何なる形態をもつて、農村下層階級を經濟的に餓飢と破綻に追い込み過小農窮困生活を生じしめたか。と言う問題について究明して見よう。そして搾取形態の在方を知るために、毛沢東の『興國県の調査』を参照してその概略を要約転載して見れば次の如くである。(註1)

才一種類・小作料による搾取。

第一郷(凌源里)才二郷(永豐坪第四郷(侯逕)では小作料五割・才三郷(山坑)では大部分六割・小部分五割。才一・才二・才四郷は水害と旱害のため收穫少なく小作料が比較的安い。

參考 『私どもでは小作料は七割です。八割も取る地主のことも聞きましたが河市郷(四川省達県)ではたいてい七割のよう

した。もつとも七割というのは秋の穀子について七割とるので、春の収穫については、昔は全然小作料をとらなかつたのです。第二次大戦中税金の種類が多くなり、地主もやりきれないので、この頃から小作料をとり出したようです。『福地いま氏『私には中国の地主どつた』一岩波新書一七頁一。福地女史は、中国で驚天動地の革命に相遇された女地主として、日本の知識婦人として珍らしい体験をされ、本書は中国研究所、東京大学東洋文化研究所の諸氏との応答の形による新しい資料を提供するものである。

才二種類 高利貸による搾取。

一、借金の利子―富農から借金出来るのは田地・山林・家屋のある貧農に限り、民国一六年（一九二七年）前は三割の利息（百元で年利三〇元）であつた。

二、借入れ米の利子―米を貸すことを『生穀（Shengku 米がなる）』と呼んでいる。富農が貧農に米を貸す場合に前年の十一月・十二月に貸したもので、或はその年の二・三月頃貸したもので、七月の収穫期には五割の利子を徴収する。（註2）このように『生穀』は高利だが『新米ひきあての米貸』（註3）は更に酷い。三・四・五月の端境期に貧農は窮乏の極に達し富農から米を借りる。その当時米価一石三元とすれば一石一元五角で新米を予約売りする。七・八月頃米を引渡すのであるが、問題は貧農が安価で引渡した米は翌年春から夏の端境期にこれを高値で売り出す所にある。

三、牛貸しの利子―富農がが牝牛を貧農に貸すのは、農耕用で毎年米一石五斗を利子として納める。仔牛が生れると富農と貧農が半分当にとる。これを『税牛 Shui niu』と呼んでいる。

四、油貸しの利子―貧農で油山をもつものは五・六月の端境期に米が缺乏を告げると、新油を予約売りして米を買う。

端増期に油の価格一ピクル（百斤）二五元だとすればこれを十二円で売る契約をなし、九月には一ピクル大体十七・八元で高値は二〇元である。若し六月に十二円で借りて九月に買主に十八元で引渡せば、その中六元が四ヶ月の利息で五割の利率となる。これを『新油ひきあての金の前借り』と呼んでいる。

参考 農民の窮情について一九五〇年暮の四川省達県河市郷に於ける『減租退押』時の農民の証言がある。『私は何も知らないで、この地主に小さい時からあちらこちらへ使い走りをさせられ、またいつも駕籠をかつがせられた。寒い夜も疲れた夜も眠らないで、この地主の麻雀が終るのを待たされていた。帰るのは大抵夜の二、三時頃だった。こんなわけで田畠の方も思うように耕せず、思うような収穫もとれなかった。収穫が悪くから小作料をまけてくれと頼んでも、少しもまけてくれず、駕籠代も払わない。まだ毎日もらつたのは小言だけだ』—福地いま『私は中国の地主だった』七一―七二頁

如上の他に同報告書は、豚貸しの利子・質屋の利子・塩貸しの利子・税金による搾取等の調査を進めているが省略する。ともかく毛沢東の農村実態調査の典型である『興国県の調査』によつて搾取形態を知ることが出来たが、そこに貧農階級が、半封建的な地主階級と高利貸と商人と言う三位一体下に社会的に経済的に（或は経済外的強制に）苦しめられて、所謂旧中国封建時代（發展段階的な社会構成として）の国家組織的な経済機構は破壊されたとは言へ、基本的な土台である地主による農民搾取（『胡麻の油と百姓は、絞れば絞るほど出るものなり』的な搾り上げ）の矛盾は広汎にわたり、むしろ普遍化の傾向にあり制抑制し難き勢力となつていたのである。従来、王道楽土・空屋築業などと訓古学者の言うイデオロギーは、農村社会生活の内には絶対に見ることの出来ぬ現情であつた。

参考 ○農民生活に就て旧来真に語られなかったことについて、毛沢東は『湖南農民運動の視察報告』で『今回湖南省に行き湘潭・湘鄉・衡山・醴陵・長沙等五県の状況を実地に視察した。（中略）農村や県城で経験をもつ農民や農民運動にたづさわつてゐる同志たちを集めて調査会を開き（中略）農民運動における多くの道理は漢口や長沙で、紳士階級から聞いた道理とはまつた

興 國 県 の 実 態 調 査 表

=1931年1月による=

| 項目 家長 | 職 業 | 家族数 | | 能 力 ・ 職 業 ・ 別 に よ る 家 族 | | 土 地 係 関 | | | 1931年の農地改革 | 備 考 = 調 査 表 の 理 解 の 爲 に = | |
|--------------------|-------------------------------|----------|----------|-------------------------|--|---|---------------|-----------------------------------|---|--|---|
| | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 総畝数 | 自 作 地 | | | 小 作 地 |
| 伝 濟 庭 39才 | 第10区第1郷(凌源里)の人 小屠場経営 農業 | 3 | 2 | 5 | 本人は新聞がまずまず読める。 父親は80才で労働せず。 | 妻は炊事、豚の世話、薪集め、衣服の洗濯で、農耕に従事出来ず。 長女1才。 | 三三三石地・ 農地・ | 17石分の農地。 | 6石分の退脚田。1石当り小洋銀6元の小作保証金と毎年3石(5割)の小作料を納める。 | 3石の小作料と150元の負債は返済無用となる。 | 退脚田とは質入れした田地のこと 興国県の地方の特別の語。 |
| 李 昌 英 48才 | 第10区第1郷(彭屋洞)の人 農業 | 2 (3) | 2 (3) | 4 (6) | 長男(20)は農耕に従事。極めて愚鈍である。 次男は3才で死亡。 | 妻は心臓弱く、炊事、洗濯、豚の世話(48) 息子の嫁(20)は薪集め、農耕は出来ない。 娘は嫁にやつた。 | 五〇石地・ 農地・ | 30石の米の収穫農地。 | 弟の李昌芳から20石収穫地を借り(実収13石で9石の小作料) | 8月に江西省南部の上部指示により家族4人に25石の収穫米地が給与された。 | 中国の1石は標準制で100リットル旧制で100升である。 |
| 温 奉 章 22才 | 第10区第4郷(侯逕)の人 農 業 | 2 | 2 | 4 | 父親(56)は脚が神経痛で労働不可能。 | 母親(46)は眼が見えず、豚の世話のみ。 妻(16)は炊事、薪集め、牛の世話で農耕は手伝わず。 | 百一〇石・ 農地・ | 8石の収穫ある退脚田。 毎年小作料2石5斗(糠穀)を納める。 | 地主から120石の農地(実収90石で55石の小作料)を借りている。 | 8月に30石が4人に分配された。郷政府の分配は公平である。 | 中国の1畝は、古くは百歩(一歩は6尺平方)秦以後は240歩。現在の標準制では1アールを1公畝とする。 |
| 陳 偵 山 24才 | 第10区第2郷(指閣寺)の人 雇傭労働者 | 3 | 4 | 7 | 長男(29)は油と塩の露店商人 次男(本人)は他農家の畠の番人 三男(18)は竹細工の徒弟で収入なし。 | 長男の妻は炊事、薪集め、野菜づくり。 次男の妻も同様の仕事。 三男の妻は9才。 長男の娘は2才。 | 三〇石地・ 農地・ | 20石の収穫ある農地。 | 10石の小作で5石の小作料。長男が行っている。 | 20石の自作地に更に29石が給与された。妻君は土地改革の結果を嬉こんでいる。 | 本図表の如く生活の具体的調査は「中国農村慣行調査」の順義県沙井村70戸の戸別調査表を参照されたい。 |
| 鐘 得 五 28才 | 第10区第3郷(山坑)の人 雑貨店の会計係 | 6 | 5 | 11 | 兄(31)は農耕に従事。 甥(9)は勉強中(妻あり) 甥(3) 本人の長男(7)は勉強中。次男は2才。 | 母親(57)で子守。 兄の妻(32)は炊事、洗濯、薪集め 本人の妻(28)も同様の仕事。 甥の妻(9)は子守。 姪は2才。 | 六六石地・ 農地・ | 30石の米の収穫地。 | 36石の小作地で21石6斗(60%)の小作料を金に換算し、米は残す | 1人当り5石の農地が与えられ、合計60石5斗となるが、上等地、下等地があり公平ではない。 | 中国の貨幣単位は、元。角。分。で、日本の円。十銭。銭に相当しその計算には大洋。小洋の二種類があつた。小洋は五角、二角、一角の補助。 |
| 黄 大 春 36才 | 第10区第1郷(茶丹村)の人 雇傭労働者(爆竹業) | 2 | 2 | 4 | 弟(32)は竹細工を行い、1日の賃銀は一毛で、煙草、着物をつくれば残らず。 | 母親(54)は9年間病氣。 妻(31)は薪割り、これを白露の市場で売り、米を買う。その他炊事、洗濯、野菜づくりで非常に苦労。 | 五石地・ 農地・ | 5石の米の収穫地。 | | 1人当り7石の農地が給与されたが農具が無く困まっている。 | 貨幣で、大洋とは、標準貨幣の1元銀貨のこと。 |
| 陳 北 平 24才 | 第10区第3郷(山坑)の人 小学校の教師 | 3 (6) | 3 (5) | 6 (11) | 長男(38)は左官屋で50元収入。 次男(31)は農耕に従事。 三男(本人)は小学校で6年、高等小学校で一年半勉強し、50元の収入あり。 | 母親(62)祖母(91)長男の妻等は死亡(1930) 次男の妻と、本人の妻は炊事、薪割り、洗濯、野菜づくりで農耕は出来ない。 | 五二石地 農地 | 32石の収穫米地。 | 20石の収穫地の小作。 10石の小作地。 | 1人当り5石5斗で9人分が与えられた。劣等地が多い。 | |
| 雷 漢 香 25才 | 第10区第3郷(山坑)の人 農業労働者 | 3 | 2 | 5 | 長男(43)は一年の3分の1を農業労働者、残りは自作耕。 次男(39)は一年の3分の2を長工雇農労働者。 | 母親は(70)。 長男の妻(34)は炊事、薪集め、野菜づくり。 | 五一斗農地五 | 7石5斗の収穫米地。 | 公堂の農地44石分を小作し6割の小作料。 実収30石で小作料は86%となる。 | 1人当り6石5斗で合計32石5斗が分配された。 | |

く反対のものであつた。たくさん珍しいこと、つまりいままで見たことも聞いたこともないようなことにいくわした。」と述べてゐる。

次で更に生活の内容の具体的調査に就て毛沢東の如上の報告書に随へば、彼が同調査地に於て殊に才十区に住む、傳濟庭・李昌英・溫奉章・陳偵山・鐘得五・黃大春・陳北平・雷漢香の八家族に對しての、一週間にわたる調査会の報告をもたらししているが、この才十区永豊区は興國県・贛県・萬安県と境界を接して四つの郷に分れて、人口は第一郷（旧凌源区）が三千・才二郷（洞江区）が八百・第三郷（山坑区）が三千・才四郷（侯逕区）が二千で合計八千八百である。この区的情況が明かになることは、贛県・萬安縣の情況もこれと同様の條件を備えるので、江西省中南部の土地關係・生活情態も推し量ることが許されるのであつて、極めて示唆に富む『生きた』資料を提供するものと確信するが、今これを表として掲載して見よう。

(別)表によつて農村の中農・貧農・雇傭農労働者の経済生活の内面が明かであり、(生活に占めるエンゲル系数は極めて大である。)日本の零細農家の状況を想わしめるものがある。(尙更に詳細な研究を推し進めるためには、族長・家父長権力・被傭労働・出稼・地点・農具・家畜等々の調査項目を補足し、類書の報告書、殊に中国農村慣行調査を併せ考究せば生活の内的機構も更に明徴となり、旧来中国社会を特徴づけて来た家父長権・家産共有制・家産均分制の問題も或る程度はその疑義を把へ得るであらう。)それにしても一九三一年三月の興国県の農地改革(註4)は、それ以後に示された土地革命の成果に比して必ずしも満足すべき結果ではないが、それは当時の国内事情の然らしめた所以のものである。併しその改革の前後には、数へ上げることの出来る相異を見るのであつて、改革前には、(一)小作料(定額租・分租・金納)は割高で強権的に搾取された。(二)家族の成員能力に関係なく、而も劣等地の不当な土地配分・等の悪条件をもつていたが、改革後は、(一)小作料の返済は無用となり。(二)土地配分は耕作関係を考慮して統一的・合理的となり。(三)家族の性別・年令の機動能力により、一人当たり五畝平均の土地を給与されたのである。

参考 現段階の中国の土地改革を知るために、一九四九年九月到北京の人民政治協商會議に採択された『中国人民政治協商會議共同綱領』の第三条には『中華人民共和國は……一歩々々封建的、半封建的な土地所有制を農民的土地所有制に改め……新民主主義の人民經濟を發展させて、除々に農業國を工業國にかえてゆかねばならない。』と、又第二七條には『土地改革は生産力の發展と國の工業化の必要條件である。すでに土地改革を實行した地區では農民大衆を動員し農民團體をつくり土匪や惡霸の一掃、小作料、利子の引下げ、土地配分などの諸段を経て『土地を耕作者え』を實現しなければならない。』と述べている。この二つの規定は土地改革に対する新中国の基本方針を示したものである。―現代中国辞典新中国法令編参照―。

さて如上に分析を試みた研究によつて（毛沢東の報告にのみ頼る分析評価は偏見に過ぎぬかの疑義を起させないでもない）、土地は地主階級に独占蓄積されて彼等は社会的懶惰情態を重ねて農村の生産様式は変ることなく、依然として封建的、半封建的な社会關係にある零細な土地所有者である農民下層階級を土台として、肩や手に依存する永い伝統を固守し続けたことは、生産力を麻痺せしめるとともに、農民が牛馬の如くに労働する成果の大部分を搾取される制度であれば、農民がその小作地・自己經營地の耕作に精出して、生産財資本の導入と増産に努める道理はあり得ないのであつて、そこに解放前夜に於ける中国農村の非近代的な、或は停滯的な姿を見出し得るのである。

註

(1) 『興国県の調査』報告書の原本が国会図書館中国資料部に蔵書されず、止むなく毛沢東選集刊行会（委員平野義太郎・岩村三千夫・村松一人・宮川実・他六名）編訳第一巻に依らねばならなかつた。

(2) 冬・春の端境期には米価が騰貴するので、秋に一石一元五角のものは三元として、生穀の年月にかゝわりなく米価の差額を利子として取立てるのである。

(3) これは『新米が収穫されたとき売つて返済する条件で借りる米』の意である。

(4) 一九三一年の農地改革は『中華ソヴェト共和国土地法』の『貧農に依拠し中農と強固に団結する』方針を中共第六次大会（一九二八年七月九日）以来の政策を推し進めたもので、地主の土地を沒收しこれを貧農・雇農・中農に分配するに当り地主に対して極めて苛酷であつた。―拙著『中国共産党史研究』より抜約―胡華民『中国新民主主義革命参史考資料』参照

四　　む　　す　　び

『アジアに於ける一大農業社会の歴史的な構造や秩序の内面的機構が具体的に把握されることが今日の中国学の課

題である。』（中国農村慣行調査一卷解題）の立場に沿つて、中国農村の解放前夜の姿を土地所有形態と生活情況を中心に眺めて、地主の封建的、半封建的特権階級による全面的土地支配形態、被支配階級である農村下層階級の経済的な貧困生活の情態と、それによつて起るべきものとして、農民が斯くも貧しく文化的に立遅れ萬事に劣悪な生活を強いられることは、要するに半封建的搾取機構が慣行的にまでなつて、支配階級の恣意的な収奪権欲を根強く農村内に存続せしめた關係を明にしたのである。（『農民諸君！地主という階級が、社会の發展を妨げる罪ある階級だとは、いままで夢にも思つていませんでした。土地を買い、人に貸し、小作料をとること、これが搾取だとは、少しも知りませんでした。法律で許されていることだし、それでよいのだと思つておりました』）私は中国の地主だつた（七一頁）そして、それが農民の發展を磐石の如く抑へ経済的に中国の『民主化、工業化して独立統一、富強の国となる根本障碍』となつて、中国農村の非近代的人格をかし出しているものであり、『中国の眞の論点は民衆の飢餓である。』とは今後の旧中国農村の研究に綜ゆる意味で課題とされる問題となるであらう。

——一九五四・八・七——

徽宗皇帝筆夏景山水圖に就いて

波 多 野 通 敏

身延山に国宝の徽宗皇帝筆夏景山水圖と宋版の礼記正義が秘藏されていることは、身延の地を重からしむるものが